

いのち輝かせる口腔医療を…



Healthy Mouth for a Happy Life

2023

Osaka University
School of Dentistry



大阪大学歯学部

Medico-Dental

口腔医療の未来を拓く

実践的な教育・研究環境で みなさんの可能性を 存分に伸ばしてください

Medico-Dental(メディコ・デンタル)：

歯科医療分野に、医学分野における広範な研究成果を積極的に取り入れて、口腔医科学の発展、口腔医療の向上をめざしていこうという考え。

ゲノム解析：ある生物の持つ遺伝子情報(ゲノム)を全て解読すること。

ヒトゲノムの解析は、1984年に提案され、2003年に解読が完了した。ゲノム解析にはコンピュータ活用が不可欠で、ゲノムなど生物情報の解析をコンピュータで行う研究領域を「バイオインフォマティクス」といい、その技法は先端口腔医療に利用されている。

ライフ・イノベーション：医療・介護分野革新。生命機能や疾患原因の解明など幅広い研究を通じて、健康社会の実現に挑戦すること。大阪大学歯学部/大学院歯学研究科では、最先端の科学技術を活用し、ライフ・イノベーションの推進に取り組んでいる。

先端口腔(こうくう)医療：歯の治療のみならず、舌、唾液腺、唇、顎などについて、機能維持や回復、疾病の予防や治療などに携わるのが口腔医療。最新の口腔医療では、分子生物学、遺伝子工学などの研究成果を取り入れ、人々の「生活の質」(QOL)向上をめざし活動を続けている。

よき医療人であれ：優れた専門性を持った医師・研究者であるだけでなく、高い倫理観、知識・技術への探求心を備え、人々の健康と福祉の向上に貢献することを喜びと実感できる、心豊かな口腔医療のスペシャリストになってほしいという願いを表している。

内科的アプローチ：歯の治療は、従来「削り取る」「代替物を詰める」といった外科手術のような、いわば外科的アプローチが主流でした。これからは、生活習慣の改善による予防、飲み薬による口腔疾病の治療など内科的アプローチも進めていこうと考えられている。



世界に冠たる大阪大学歯学部で学ぼう！

大阪大学 歯学部長 大学院歯学研究科長 今里 聡

大阪大学歯学部は、昭和26年の創設以来、日本の、そして世界の歯科を牽引するトップリーダーを養成することを目標に、最高水準の歯学教育を提供することをモットーとしてきました。

これからの歯科医師にとって大切なことは、からだの構造や機能、病気のメカニズムを分子・遺伝子レベルで理解したうえで、正確な診断を行い、科学的根拠に基づいた最適の治療を実践するとともに、病気の発生の予防に力を注ぐことです。また、口の健康がQOL (Quality Of Life) に深く関わることを理解し、ひとびとの人生をより豊かにする役割を担わなければなりません。

予防歯科医学や再生歯科医学を指向した新しい歯科医療を提供するスーパー・デンティストや、次世代の歯科医療の実現に貢献する歯科医学研究者を目指して、世界に冠たる大阪大学歯学部で学び、あなたのほとばしる情熱に翼を与えて未来へ羽ばたかせて下さい。

内科的アプローチ

ライフ・イノベーション

先端口腔医療

よき医療人であれ
ゲノム解析

いのちに輝きを

食べること

できる限り自分の歯でよく噛んで食べることが 高齢になっても楽しく 毎日過ごす秘訣。点滴などをなるべく使わず、口から食べることが大切です。

息をする、眠ること

日ごろ無意識にしている「呼吸」ですが「睡眠時に呼吸が止まってしまう」など、トラブルがおこることもあります。そういう問題の解決にも、口腔医療が役立っています。

「歯科医療から口腔医療へ」の流れの中で、歯学部教育研究目標も広がっています。

大阪大学歯学部では、口の中の健康を通じて全身の健康を維持・増進し、人々のQOL(生活の質)を支えることができる専門家を育成しています。

味覚を感じること

おいしいものをおいしく食べられる。いい匂いをかいで幸せになる。「食事が楽しい」は赤ちゃんから高齢者まですべての人が望んでいる 生きる喜びの基本です。

生きること

口の中の状態は、全身疾患とも深い関連をもっています。口腔の機能を回復させ 健康にする口腔医療は、かけがえのない人間の「いのち」を支える大事な仕事です。

飲み込むこと

食べもの・飲みものを 飲み込む機能を回復させれば十分に栄養がとれるので 体力の衰えも防げます。肺炎などいのちに関わる病気の予防にもなります。

話すこと

口の大切な機能の一つは「話す」こと。人が社会生活を営むためにはコミュニケーションが必要だから、言いたいことを言えることは、心の健康にもつながっていきます。

表情を豊かにすること

表情が豊かだと、コミュニケーションがスムーズになる。口もとが美しいと、対人関係にも自信が湧いてくる。口腔医療は、精神面でも人のくらしをサポートしています。

基礎配属
実習

基礎科目の総仕上げと
研究へのアーリーエクスポージャー

身近な食品に含まれる
薬効成分の口腔内での効果を
研究しています。



再生医療の
一端に触れ研究の醍醐味を
味わっています。

ネズミの胎児の唾液腺をさまざまな条件下
で培養するという研究にグループで挑戦し
ました。学内発表会が目前に迫った頃に、
わかりやすいプレゼンテーションをめざし
て何度も練習をしたことが印象に残って
います。発表で1位に選ばれ、努力が認めら
れた時は嬉しかったですね。



「カレーの成分であるターメリック
が、むし歯の原因となる菌にどんな作
用をもたらすか」について研究を行
いました。ターメリックが、むし歯の原
因菌の生育を抑えることを証明し、
学会で成果発表も行いました。その
際、学会から最優秀の発表賞を受け
たことが強く印象に残っています。



「緑茶でうがいをする」と新型イ
ンフルエンザに効果がある」と
いう話を聞き、むし歯に対して
はどうだろうかと興味をもって
研究しました。最先端の機器を
使って本格的な実験ができるの
がうれしいですね。研究をしな
がら、細菌に関してもっと勉強
したいと思うようになり、これか
らの講義が楽しみになりました。



2ヶ月で成果を出さねばならないのがハー
ドでしたが、再生医療の最新研究を世界
でも最先端の設備を使って体験できると
いう恵まれた環境に心が躍りました。2ヶ
月で実験から分析、発表までを体験する
ことができ、「本格的な研究をしているの
だ」という充実感をえました。



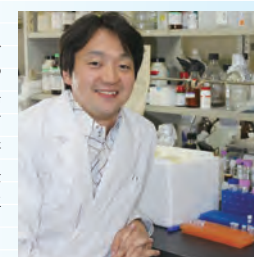
教員の一言



基礎配属実習は、大阪大学歯学部オリジ
ナルの科目で全国でもユニークなカリキュ
ラムです。学生が志望する研究テーマに
沿って、9つの基礎教科の研究室に配属さ
れ、担当教員の指導のもとで研究活動に
専念します。短い実習期間の中で優れた
研究成果を上げる学生も多数います。希
望者は学会で研究発表を行うことも可能
で、研究者としての第一歩を踏み出す絶
好の機会ともなっています。
住友 倫子 講師

教員の一言

基礎配属実習は高年次の臨床系実習の前段階であり、歯学研究を身近に感じる
ための科目として位置づけられています。
実験から発表までを経験することで、それ
までに学んだ専門知識の総まとめができる
ため、基礎配属実習を終えると理解度が格
段上がるように思います。また、がんばっ
ている大学院生の姿を身近に見ることで、研
究への意欲が高まるようです。この実習を
きっかけに、さらに高レベルの研究内容に
挑戦してくれることを願っています。
波多 賢二 准教授



歯科
保存学

QOLに配慮しながら
歯の機能の維持をめざす

人形を使ったトレーニングで
歯科独特の手技を
学んでいます。



歯をできるだけ生きたまま残して治療するという考え方に基づき、場合にに応じた歯の保存や修復の方法を学んでいます。今回の実習の課題は歯の中心を削って、歯髄（歯の神経）を抜くこと。人間の歯髄は繊維状で、模型とは違う面があるので、実物を想像しながら手順を進めていきます。むずかしいのは口腔という3次元空間を把握することです。実際に手を動かしてみると、口の中は想像以上に狭く、どういう角度に手をもっていいのかわかりません。はじめは戸惑います。しかし何度も経験する間に手が覚えてきて、器具を使って見えなところをミラー越しに治療するのにも慣れてきました。5年次の共用試験を前に、基本的な技術を一通り身につけることが目標です。



教員の一言

例えばむし歯に詰めものをする場合も、どこにどう材料のものを詰めるかは、歯の種類（前歯か臼歯かなど）、材料の性質を理解した上で、患者さんの状態に即して判断する必要があります。臨床に生かせる知識を身につけるため、実習では「考えながら治療すること」を重視しています。また、実際の患者さんの例から課題を見つけ、自ら調べてプレゼンテーションすることを通じ、「学び方を学ぶ」機会も設けています。

伊藤祥作 准教授



歯科
補綴学

歯を失ったために起きる
トラブルからの回復をめざす

「美しく、使いやすく」を
めざして義歯の作製に
取り組んでいます。



今取り組んでいるのは、総義歯（入れ歯）を作る実習です。初めてですが、何とかきれいなものを完成させようとがんばっています。途中で壊してしまったら最初からやり直しなので、かなり集中力が必要です。また授業は午前中が講義、午後には実習と続くので、長いと感じることもあります。でも、講義で学んだばかりのことを実習で確認するというスタイルなので内容はわかりやすく、先生方にも質問しやすい雰囲気です。私には入れ歯の経験がないので「歯がない」状態を直感的に理解することはできませんが、模型相手の実習でも、そこにいるのは患者さんなんだと想定し、椅子を倒す時には「倒しますよ」などと声をかけながら、気持ちを込めて作業を進めています。



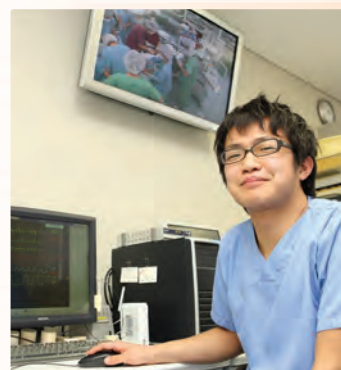
口腔
外科学

「口」の外科医としての
さまざまな治療法を学ぶ

手術に立ち会いながら、
学んだ知識を
再確認していきます。



口の中の問題には、上あごが生まれつき癒合していない状態（口唇口蓋裂）や、がん、他の療法では改善しない顎関節症など、外科的治療が必要なものがあります。この授業では、そういう状態について講義で学んだ後、実習として大阪大学歯学部附属病院の外來診療室や手術室での治療を見学し、現場の高度な診療技術を学びます。いわば「外科の「口（くち）バージョン」という内容の授業です。手術に立ち会って感じるの、良い治療をするためには、生活習慣病や感染症など、身体全体の知識を蓄えていく必要があるということ。また、低年次の実習で学んだ解剖学の知識が不可欠だという点も実感しました。患者さんの気持ちへの配慮についても、多くのことを学んでいます。



教員の一言

口腔外科疾患では、摂食・嚥下・発語・味覚といった口の機能が障害されることで、全身にもさまざまな影響が及ぶことが少なくありません。卒前臨床実習では、口腔局所のみならず、全身状態を正しく評価しながら診察・診断することの重要性を学んでもらいます。個々の学生が持つ豊かな人間性を生かして、病気だけでなく患者心理にも真摯に向き合い、信頼される臨床医になるための第一歩を踏み出してほしいと考えています。

田中 晋 教授



臨床実習

診察・検査・診断・治療の
基本を現場から学ぶ

患者さんとの
コミュニケーションの
大切さを実感しています。



この実習では、歯学部附属病院の先生をアシストする形で、学生が医療チームに参加することを了承してくださった患者さんの医療行為に携わります。内容は歯型を取ったり、スケーリング（歯石の除去）を行ったり、レジン（歯科用プラスチック樹脂）を詰めたりといった比較的簡単な処置ですが、念入りに下調べして、手順を確認してから始めます。初めのうちは非常に緊張しましたが、「白衣を着たら先生と同じ」という責任感と自覚をもって、その場に臨んでいます。入れ歯の調整をさせてもらった患者さんから「噛みやすくなった」と言われたときは本当に嬉しかったですね。患者さんの状態は一人ひとり違うため、参加する度に新しい発見があります。



教員の一言

大学病院での教育・研究の一環として学生が診療に参加することを理解し、ご協力いただける患者さんに対し、学生が十分対応できる範囲の医療行為を任せています。学生は一生懸命に準備し、コミュニケーションの仕方も真剣に考えてきますので、一人ひとりの能力を見極め、適切な課題を与えることが教員の務めだと思っています。

長島 正 教授





多彩に広がるステージ。
My Goalに向けて活躍する先輩が世界にいる。



最先端の歯周病研究を通じ、 予防歯科診療に挑戦しています。

大阪大学歯学部卒業年は？ 1995年
現在の所属は？ 大阪大学大学院歯学研究科
口腔分子免疫制御学講座 予防歯科学教室



久保庭 雅恵 さん

歯周病を引き起こす細菌がどのように口の中に定着・増殖し、ヒト免疫機構の攻撃をかいくぐって生きながらえ、病状を悪化させていくのかについて、最先端の研究手法を用いて研究しています。また、臨床面では予防歯科の医師として患者さんと接しています。“Molecular Oral Microbiology”という国際学術雑誌の編集委員にも選出され、各国の研究者からの投稿論文の査読に携わるようになりました。阪大歯学部は単なる歯科医師養成機関ではなく、最新の口腔科学の研究が展開されている理想の環境。わくわくするような研究テーマと出合えるチャンスがいっぱいです。知的好奇心旺盛なリケジョ(理系女子)の皆さんにも、ぜひ阪大歯学部を目指してほしいですね。



Q. 社会人経験の後、
歯学部に入學されたそうですね？

A. 他大学農学部出身ですが、生物系の研究職に就きたいと思い立ったのが大学への再チャレンジのきっかけです。阪大歯学部を志したのは、国家資格取得ができること、医療系ならば農業系の研究職に比べて家族の近くで勤務できる可能性が高いことなどが理由です。

人の顎顔面を含めた骨と骨格に関して、 遺伝子レベルでの解明をめざす。

大阪大学歯学部卒業年は？ 1998年
現在の所属は？ 大阪大学大学院歯学研究科 生化学教室

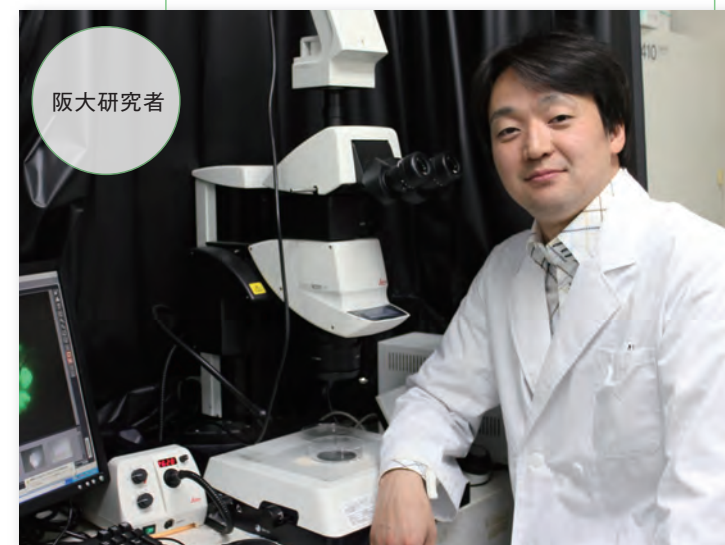


波多 賢二 さん

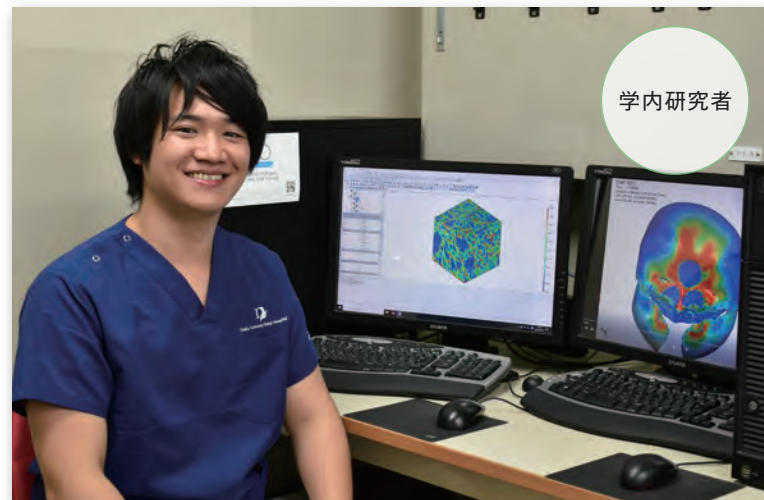
卒業後第二補綴科に入局しましたが、同時に生化学教室で研究を行っていました。その頃研究室におられた先生方に基礎研究の楽しさを教えていただき、留学して基礎研究者としての道を歩みたいと真剣に考えるようになりました。現在は人の顎顔面を含めた骨格がどのように作られ、そして骨はどのように機能しているのかを遺伝子レベルで解明する研究に取り組んでいます。将来的には、顎顔面骨格に異常をきたす疾患の病態の解明や、骨の病気の治療薬の開発に貢献したいと考えています。学生の方には、目先の実益のみを優先せず、歯科医という職業への理想や責任について、明確な考えをもつよう心がけてほしいですね。そうすれば、この仕事を選んだことを誇れるようになると思います。

Q. 歯学部時代の心に残る思い出を
教えてください。

A. 臨床医をめざしていたので、臨床実習に無我夢中で打ち込んでいました。あの頃、将来研究者になるとは夢にも思っていませんでした。またバスケットボール部に所属し、多くの人と交流したことも、今から思うと貴重な経験だったと思います。



患者さまのために、日々新しい 歯科材料の研究開発に邁進しています。



学内研究者

Q. 歯学部への進学を決意したのはどのようなきっかけからですか？

A. 小学生時代に通っていた歯科医院の先生がとても優しく、それが影響したのか、その頃から漠然と歯科医師になりたいという気持ちを抱いていました。その後、大学受験を迎え、幼い頃に憧れていた職業に就きたいと改めて思い立ったことから、大阪大学歯学部へ進学することを決意しました。大学5年生の時に、自分たちで行った研究を国際学会で発表させて頂いたことが素晴らしい経験となりました。

大阪大学歯学部卒業年は？ 2018年
現在の所属は？ 大阪大学大学院歯学研究科
歯科理工学教室、歯科補綴学第一教室



堺 貴彦 さん

歯科医師は、さまざまな歯科材料を取り扱う職業です。小さな虫歯や大きな虫歯の治療、あるいは失ってしまった歯を再建する場合にもこれらの歯科材料を用います。私は歯科医師として、患者さまに最良の歯科医療を提供できるように、分野を問わず日頃から、さまざまな研究者たちと協力し、これまでにない新たな歯科材料の研究開発に取り組んでいます。私の所属する歯科理工学教室には、海外からの留学生が多数在籍しており、研究ミーティングや論文抄読会など、日々の会話がすべて英語で行われています。また国際学会での成果発表や海外の大学への短期留学など、グローバルな経験を数多く積むことが可能です。優秀な歯科医師はもちろんのこと、世界に通用する研究者になるためにこのような恵まれた環境で学べるのが大阪大学歯学部の大きな魅力だと思います。

変化しないはずの「顔」が 矯正治療で変わる不思議さが研究の原点になった。

大阪大学歯学部卒業年は？ 1989年
現在の所属は？ 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
歯科矯正学分野



宮脇 正一 さん

「噛み合わせがいいことや、口が健康であることが、胃や食道に係る病気の予防に役立つのか、また、その逆もあり得るのかどうか」を調べる研究をしています。将来的には、口の健康が胃や食道の病気の予防に役立つことを明らかにして、国民の健康増進やライフ・イノベーションの推進に貢献したいと考えています。私が歯科矯正学の専門家をめざしたきっかけは、普通は変化しないと思われる歯ならびや顔が、歯科矯正治療によって大きく変化する不思議さに魅了されたことです。他にも阪大で超一流の教育・研究・臨床に触れ、研究意欲の芽を育てていくことができました。阪大歯学部を出た多くの卒業生が、世界をリードする研究者や臨床家になっています。これから阪大をめざす皆さんも、ぜひ、この後に続いて下さい。



学外研究者

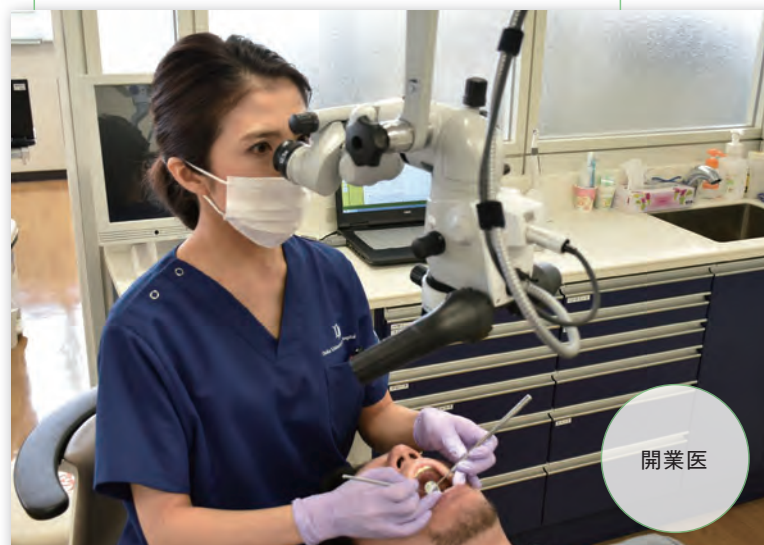
Q. 大学時代の思い出や、学んだことを教えてください。

A. 友人との付き合いや旅行などの楽しい記憶から、実習での失敗や先生方から叱られた苦い体験まで、思い出は色々あります。大阪大学では最先端の知識や高度な臨床技能に加え、医療人・研究者としての姿勢についても多くのことを学べたと思っています。

じっくりと考え、学ぶ姿勢を大切に 診療と研究に打ち込みました。

Q. 歯学部を卒業してよかったと思うことは？

A. 少人数で6年間、授業や実習などの長く濃い時間をともに過ごすこともあって同期とのつながりが強く、絆を深めることができました。実習や試験、研修医時代など苦勞をともにした同期たちは、今では職場は違っても困ったときに相談できる心強い仲間です。



開業医

大阪大学歯学部卒業年は？ 2011年
現在の職業は？ いこまなほし歯科クリニック 院長



廣瀬 奈々子 さん

私は、歯科医院を開業するまでは、歯学部附属病院で歯科診療に従事しつつ、歯科材料に関する研究を行っていました。診療活動としては、歯の神経の治療を専門とする科に所属して、歯科用マイクロスコープをのぞきながら、歯の中の感染源を除去して歯の病気を治すことに従事し、一方の研究活動では、抗菌性を備えた生体機能性材料（簡単に言うと、歯に感染したむし歯菌を殺菌するための歯科材料）の開発に携わりました。こういった活動を行うことで、自分で研究して得た結果や、学会や論文から得た新しい知識をもとに、根拠をもって歯科治療に臨むことができます。質の高い医療を実現し社会に貢献するための研鑽を積むうえで、大阪大学歯学部は最適な場所だと確信しています。

歯科医師の仕事の場を広げたいという思いで、 さまざまな活動に取り組んでいます。

大阪大学歯学部卒業年は？ 1987年
現在の職業は？ 大阪労災病院歯科口腔外科に勤務



吉岡 秀郎 さん

市中病院の歯科口腔外科で勤務医として働き、患者さんの診断・治療にあたるほか、臨床研修医の受け入れ、医局員のキャリアアップ指導など、さまざまな活動を行っています。その一方で、大学診療科と連携しながら、臨床研究を今でも続けています。さらに学会活動、研修など臨床以外にも多くの時間が取られ、忙しい毎日ですが、その分充実していると思っています。昨今、歯科医療業界の落ち込みが言われていますが、大阪大学歯学部は従来の診断・鑑別・治療・予防以外にも再生医療や最先端医療をめざして、研究面と臨床面の充実を図っているため、卒業後の可能性は大きく開けています。

Q. 口腔医療の専門家をめざしたきっかけは何ですか？

A. 「生きる意欲は食べる意欲である」という言葉を知って、口腔という器官に興味をもったのがきっかけです。授業時に教室を訪れた患者さんの体験談から、診断・治療・リハビリという一貫した治療の結果、口腔機能が回復・維持されていることに強い感銘を受けました。またその方の手術跡も目立たない顔かたちや明瞭な発語にも驚かされ、自分も専門家になりたいという気持ちが強くなりました。



勤務医

もっと充実した口腔医療を 提供するために、日々努力を続けています。



開業医

Q. 阪大時代を振り返って、
どんなことが心に残っていますか？

A. 〈山本晴彦さん〉 臨床実習の指導教官が素晴らしい方だったので、歯科医になりたいという気持ちが強くなりました。卒業後、臨床実習の教官として学生を指導することになりましたが、他人に教えることは自分の勉強にもなると痛切に感じました。

〈山本泰子さん〉 学生時代は毎日が多忙で、時間に追われる日々でしたが、仲間と協力しあって多くを学ぶことができ、今から思えば大変充実した日々だったと思います。その時築いた人間関係は今も大切な財産です。



山本 晴彦 さん

私は歯科医であると同時に、医院の管理者という立場にいます。スタッフのレベルアップに取り組むとともに、新しい技術を習得し、治療内容の充実に努めています。また、後輩の卒後研修医を受け入れるなど、次代を担う優れた歯科医の育成にも力を尽くしています。

大阪大学歯学部卒業年は？ 1981年
現在の職業は？ 医療法人社団愛泉会
山本歯科医院 院長



山本 泰子 さん

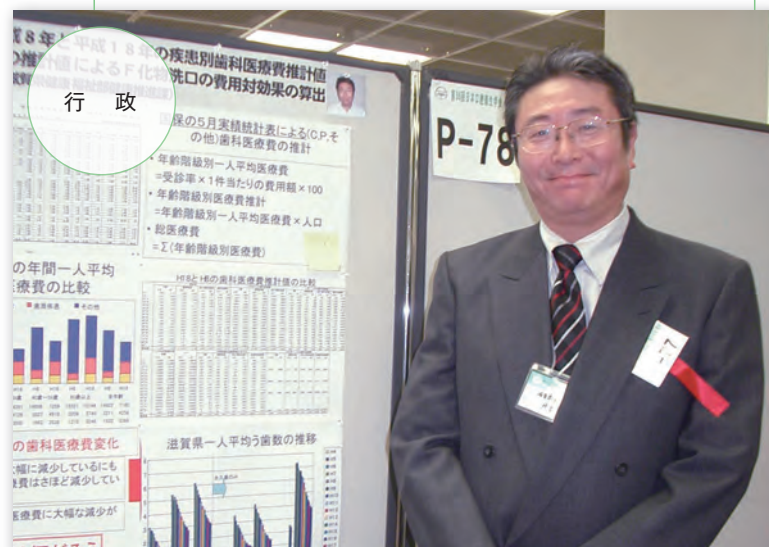
患者さんの「かかりつけ歯科医」として、長い信頼関係を保っていただけるように努力しています。コミュニケーションを緊密にするため、ホームページによる情報発信や雑誌への寄稿、講演会の開催など、広報的な活動にも力を入れています。

大阪大学歯学部卒業年は？ 1987年
現在の職業は？ 医療法人社団愛泉会
山本歯科医院に勤務

口腔医療の専門家をめざしたきっかけは、 人の健康に関わる仕事がしたかったから。

Q. 歯学部出身者の進路には、臨床医、
研究者以外にどんなものがありますか？

A. 歯学部を卒業すれば歯科医師になる人が多いですが、歯科医師の資格を有していても、歯科医療の世界でしか活躍できないわけではありません。直接患者さんの診療にあたらなくても、研究の分野で世界的な成果を上げている人もいれば、私のように自治体で、人間が健康に生きていけるサポートをする仕事に関わる人もいます。



井下 英二 さん

滋賀県行政の一員として、すべての住民が健康で暮らすことのできるための全般的な仕事をしていました。たとえば、たとえ障害を持っていても生涯を通じて快適に過ごせるような口の健康づくりの支援や、学校や企業と共同して生涯、健康でおいしく食べられる仕組みづくりが仕事の内容です。職場では、歯科医師だけでなく医師、薬剤師、獣医師、保健師、管理栄養士、歯科衛生士、作業療法士、そして事務方などさまざまな職種の人々が協力しながら健康に関する課題に取り組んでいます。資格免許は「歯科医師」ですが、「歯科」にこだわらず公衆衛生のプロフェッショナルとして「歯科」の専門的な知識を活かしつつ仕事をしていました。

※定年退職し、現在は
梅花女子大学で教授を務める

大阪大学歯学部の6年間をともに過ごす仲間がいる。

全学部を対象としたクラブ・サークルとは別に、歯学部には歯学部生を対象とした独自の団体があります。勉学と両立させながら全国の総合大学歯学部や歯科大学との交流・大会を目標として活発に活動しています。



バスケットボール部



剣道部



準硬式野球部



大阪大学歯学部自治会
大阪大学歯学部体育会
準硬式野球部
ゴルフ部
バスケットボール部
庭球部
サッカー部
スキー部
卓球部
バドミントン部
写真部
ラグビー部
MESS
水泳部
合奏団
剣道部
軽音楽部



MESS



庭球部



ゴルフ部



バドミントン部



サッカー部



水泳部



スキー部



卓球部

口腔科学・口腔医療の最新研究成果が 世界で共有されることをめざして。

歯学教育・研究の国際化を目標に
留学生の受け入れを積極的に進めています。

大阪大学歯学部は「外国人留学生の受け入れと国際的に活躍できる研究者並びに歯科医療人の育成」を教育目標の一つに掲げ、世界の国々から留学生を受け入れています。留学生たちは、将来は出身国の歯学界をリードするという覚悟をもって積極的に知識を吸収しており、大阪大学のキャンパスを舞台に、日本人学生たちとの活発な国際交流が繰り広げられています。

研究者の共通語としての英語習得にむけて
英国・米国などへの短期留学制度を導入しています。

国際共同研究を進めたり海外の学会で発表を行ったりするには、英語の運用能力が不可欠です。そのため歯学部では口腔科学の研究・医療に必要な内容に特化した、独自の学生海外派遣プログラムを実施しています。学部生(6年生)を対象としたものとしては、学部間交流を締結している大学等への短期留学制度があります。

■学術交流協定(学部間交流)締結大学



米国での研修を体験 百聞は一見にしかず



西本 真太郎 (徳島県立徳島北高等学校出身)
学部学生海外派遣プログラムでアメリカ・ワシントン大学の研修に参加しました。学生の講義に参加したり、Dr.の診療見学をしました。アメリカの人たちの積極性が印象的でした。題名にもある通り、実際に自分の目で見たことは大きな糧となります。アメリカで学んだ「Try it !!!」の精神を忘れず何事にもチャレンジし続けていきたいです!!!



タイでの研修を体験 英語で歯科とタイについて 学ぶことができました。



松本 夏 (兵庫県立神戸高等学校出身)
学部学生海外派遣プログラムでタイ・マヒドン大学の研修に参加。診療見学では、国が違っても考え方や治療方法は変わらないことを確認しました。また、診断・診療計画のディスカッションや公衆衛生講義にも参加できました。タイでは、学生による診療は安価なので患者さんも多く、臨床実習しやすい環境だと感じました。



大阪大学 歯学部



大阪大学吹田キャンパス空撮



■大阪大学歯学部 歴史

- 大正15(1926)年 大阪医科大学(府立)に歯科学教室を設置
- 昭和 6(1931)年 大阪医科大学(府立)は大阪帝国大学医学院となり、翌7年歯科学講座を設置
- 昭和22(1947)年 大阪帝国大学が大阪大学と改称
- 昭和25(1950)年 大阪大学医学部に歯学科を設置
- 昭和26(1951)年 医学部歯学科が医学部より分離独立し、歯学部創設。6講座、学生定員30名(1学年)をもって発足
- 昭和28(1953)年 7診療科、27病床をもって歯学部附属病院設置
- 昭和29(1954)年 第1回卒業生(10名)巣立つ
- 昭和30(1955)年 歯学専攻科を設置
- 昭和35(1960)年 学生定員を40名に増員
大阪大学大学院に歯学研究科を設置
歯学部附属歯科技工士学校を設置
- 昭和41(1966)年 学生定員を60名に増員
附属病院病床を40床に増床
- 昭和56(1981)年 学生定員を80名に増員
- 昭和58(1983)年 吹田キャンパスに移転
- 平成 2(1990)年 学生定員が65名となる
- 平成12(2000)年 大学院歯学研究科が大学院の重点化に伴い大講座制に移行
- 平成16(2004)年 国立大学法人大阪大学設立
- 平成19(2007)年 一般歯科総合診療センター設置
- 平成21(2009)年 口腔科学フロンティアセンター設置
- 平成22(2010)年 近未来歯科医療センター設置



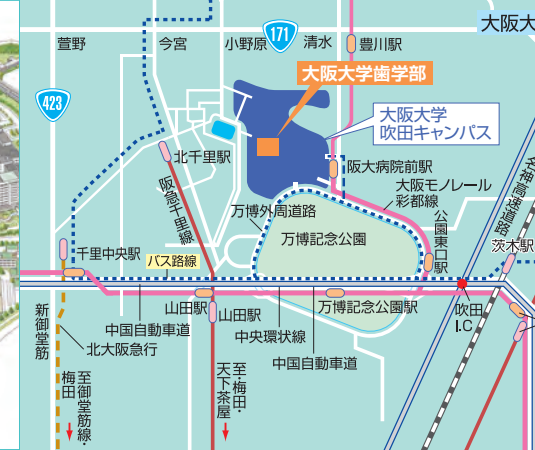
- 平成23(2011)年 学生定員が53名となる
概算要求特別経費による「口の難病」から挑むライフ・イノベーション」プロジェクト開始
- 平成24(2012)年 大学院歯学研究科を1専攻に改組
- 平成25(2013)年 口唇裂・口蓋裂・口腔顔面成育治療センター設置
- 平成27(2015)年 国際歯科医療センター設置
- 平成28(2016)年 歯学教育開発センター設置
- 平成29(2017)年 「口の難病」国際ステーション設置
- 平成30(2018)年 口腔がんセンター設置
口腔インプラントセンター設置
インベティブ・デンティストリー戦略室設置
- 令和3(2021)年 インベティブ・デンティストリー推進センター設置



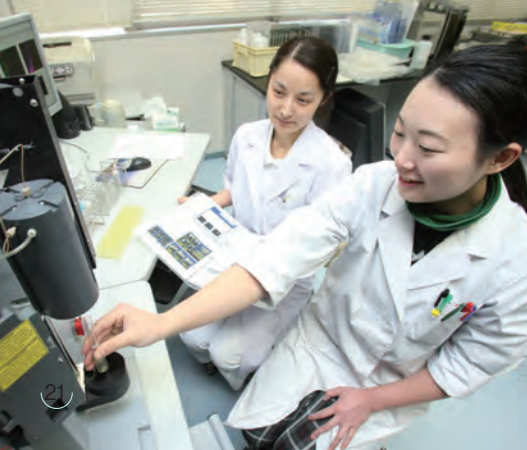
歯学70年の糧を さらなる口腔医療の 発展に向けて――



大阪大学歯学部は
いのち輝かせる
先端的口腔医療の拠点、
ここから世界の研究最前線へ



- ### ■吹田キャンパス歯学部へのアクセス
- #### 《電車》
- 阪急千里線／北千里駅(終点)下車 東へ徒歩15～30分
 - 阪急京都線／茨木駅下車→近鉄バス利用
 - 阪急宝塚線／池田駅下車→大阪モノレール利用
 - 地下鉄御堂筋線・北大阪急行／千里中央(北大阪急行終点)下車→阪急バスまたは大阪モノレール
 - JR京都線／茨木駅下車→近鉄バス利用
- #### 《バス》
- 阪急バス／●千里中央発「阪大本部前行」、「茨木美穂ヶ丘行」●北千里発「阪大医学部病院前行」※千里中央発、北千里経由もあります。
 - 近鉄バス／●阪急茨木駅発「阪大本部前行」(JR茨木駅経由)阪急バス・近鉄バス、いずれも阪大医学部前または阪大本部前下車徒歩5～15分
- #### 《モノレール》
- 大阪モノレール／阪大病院前下車 徒歩約5～15分





大阪大学歯学部

〒565-0871 吹田市山田丘 1-8

tel.06-6879-5111（代表）

tel.06-6879-2835（直通）

www.dent.osaka-u.ac.jp



← 入試情報はここから